

# 青葉もゆる



第3号  
平成24年1月16日  
発行  
東北大学男声合唱団  
OB会仙台支部

## OB会会長交代

### 新会長挨拶 戸田靖男(30)

2011(平成23)年12月18日仙台市旭ヶ丘青年文化センター第一研修室において、OB会総会が開催されました。仁科博之会長(当時)から「OB会が発足して10年会長職を引き受けてきたが、そろそろ後進に交代をお願いしたい」との辞意表明があり、幹事団から昭和30年卒団戸田靖男氏が後任候補として推薦され、満場一致で承認されました。

戸田さんは昭和28・29年仁科初代指揮者の後を継いで男声合唱団を指揮し、29年全日本合唱コンクール大学の部全国第二位を獲得。作



就任の挨拶をする戸田新会長

詞・作曲も手掛け、昭和27年、学生歌として「陸奥の青葉の都」が第二席入選。仁科氏との共作詞「歌え若人」は永く男声の愛唱歌として歌い継がれています。

文学部英文科卒業後宮城県下で高校教師として奉職、合唱活動を各校で広めました。昭和33年仙台の混声合唱団クル・リュミエールの指揮者に就任して国内のみならず海外演奏活動も展開しております。

合唱曲・吹奏楽の作・編曲も数多く、全日本合唱連盟や宮城県芸術協会の表彰を受けました。現在もクル・リュミエール・茶畑男声合唱団・お母さんコーラス教団体を指揮しています。

平成21年の東北大学ホームカミングデー・コンサートでは在学時東北初演した「月光とピエロ」全曲を男声OB合唱団を率いて演奏し好評を博しました(会報第二号参照)。

戸田でございます。仁科先生には東北大学合唱団で指揮者として合唱の何たるかを教えていただき、高等学校に奉職してからは同じ学校で勤務したこともあり、常にご指導をいただきました。

また、私がリュミエールで棒を振る様になつてからは常に先輩合唱団としてのローゼンシュタットコールの指揮者である先生の後を追いつながら歩んで参りました。東北大学男声合唱団OB会の会長を永くお勤めになり会の発展のために多大の素晴らしい足跡を残してこられました。

このように偉大な先輩の後を受け継ぐという事は、一般にはよく「身の引き締まる思い」と申しますが、私にとりましては「身の縮む思い」であります。

今年には東北大学男声合唱団創立60年ということですが、人間でいえば還暦にあたり、次の60年への第一歩につながるわけですが、男声の誕生した昭和26年といえれば私が入学して初めて一年生として仁科先生の指揮で歌い始めた年であり、今更のようしめております。この間、OB会の皆様には常に現役諸君の力強い支えとなり、また各地で目覚ましい活躍を続けておられますことに対し心からの敬意を表したいと存じます。今後のOB会のさらなる充実・発展のために、会員皆さんお力をお借りしながら、皆様からの様々なご提案も含めて、皆さんと一緒に歩んでゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

探しつつの状況でしたが、末光文化部長(50)のお骨折りで片平さくらホールの使用が認められました。現在かつての片平ルーエ跡にプレハブ棟を建設中で、今年3月頃から使用の予定です。その後は川内に新課外活動施設の建設計画があり、ここに移るようになっております。同施設は男声、混声、交響、演劇等の練習場を含み、180席のミニシアターを備えた本格的なものです。建設にあたってはOBからの寄付も集めたいとのことです。近々ご案内の予定です。その節は、何卒ご協力宜しくお願い致します。

## 東京支部役員改選

平成23年11月27日の東京支部第5回総会において、下記の通り改選されました。

支部長 北林均(44)新任、事務局長 小松正佳(46)留任、幹事 長崎文康(49)留任、嵯峨秀夫(57)留任、栗山仁(62)新任(H.P管理)、会計幹事 石川幸良(45)留任、退任 支部長 生馬洋(40)、幹事 松本寿浩(41)

生馬前支部長には一期二年、東大・九大OB合唱団との三大学ジョイントコンサート「今こそ歌を」の開催、男声定演CD復刻事業で大きな成果を上げていただきました。HP管理は開設以来の松本氏が退任し、新任者でフレッシュな情報更新・発信が始まっています。皆様も積極的にご参加ください。

## 現役の様況

### 男声合唱部部长 境田清隆(50)

震災のためひと月遅れで始まった平成23年度、昨年新調していただいた立看を武器に新歓に励みましたが、時・利あらず、現在新入団生は2名で、総勢13名です。

7月はヴォイトレの佐藤淳一・鈴木誠先生とアドバイザーの奥村静剛先生のご指導を受け、9月以降第59回定演に向けての練習を再開しました。

震災後の建物調査で長年使用してきた片平の旧バス車庫が使用出来なくなり、練習会場を

### 男の合唱まつり inみやぎ

宮城県下の男声合唱団のフェスティバルで毎年1月半ばに旭ヶ丘・青年文化センターで開催されています。仙台支部を中心に毎年参加しています。

**2010年1月17日**  
末光眞希さん指揮・石垣弘子さん伴奏で岡崎光治編曲ロシア民謡「道」ウラルのグミの木を演奏しました。

**2011年1月16日**  
玉手慎太郎さん(H21)指揮で、多田武彦作曲「梅雨の晴れ間」子供達が遠くで歌っているを演奏しました。

**2012年1月22日**  
岡崎光治さん指揮・石垣弘子さん伴奏で、ロンバーグ作曲「学生王子」から「Gaudéamus」「Drinking」「Serenade」「Student March Song」を岡崎さん訳詞で演奏します。

### ホーム カミングデイ・ コンサート

東北大学で百周年を契機に始められた演奏会です。現役・OBが協力して川内萩ホールでオケ・合唱のステージが組まれています。

**2010年10月10日**  
末光眞希さんの指揮で間宮芳生作曲「合唱のためのコンポジションIII」から「艦(る)」「引き念仏」を単独演奏しました。

また、合同演奏は、岡崎光治さん(33)指揮でカバレリア・ルスティカイナ間奏曲・久石讓作曲「君をのせて」・学生歌「青葉もゆる」をオケ伴奏で演奏。

**2011年10月8日**  
岡崎光治さん指揮・石垣弘子さん伴奏でロンバーグ作曲「学生王子」から「Drinking」「Serenade」「Student March Song」を演奏しました。  
また、岡崎さん指揮で、「あらしの中をゆこう(回転木馬より)」、ボロディン曲「韃靼人の踊り」、学生歌「青葉もゆる」を合同・オケ伴奏で演奏しました。

### 東大・九大と三団OBジョイント

**2011年6月18日**  
「今こそ歌を」東日本大震災復興支援三団大学ジョイントコンサートが、品川区民会館さゆりあんホールで、開催されました。

東大・九大・東北大の組み合わせでの演奏会で、わが団はシベリウスの男声合唱曲から「舟の歌」「月よ ようこそ」「木こりの歌」「月光の下」「祖国へ」「異国にいる我が兄弟」「フィンランドディア讃歌」を中原祐輔さん(H4)の指揮で演奏しました。

### 現役への支援

メンバーは、仙台からの参加者を含めて43名。また、合同では、145名で、三団のエル、愛唄曲、そして、嵯峨秀夫さん(57)が自身の編曲「あすという日が」を指揮しました。

なおコンサート収益・寄付金140万円が宮城・岩手・福島県に各30万円、全日本合唱連盟東北支部に50万円寄贈されました。(別掲小松さん・吉川さん稿を御覧下さい)

**2009年12月**  
第57回定演に、東京支部2万円、仙台支部1万円、合計3万円の支援をしました。

**2010年8月**  
横浜市の神奈川県立音楽堂で開催された、現役三団(同志社、横国、東北)ジョイントに、お祝い3万円、チケット購入5万円。また、多数のOBが聴衆として会場に出向きました。

### 59回定演で 現役と合同演奏

**2011年12月18日**  
仙台市青年文化センターにて

男声設立60周年の記念すべき年、現役からもOBとの合同ステージを持ちたいとの声が上がりました。岡崎光治さんの指揮でロンバーグ作曲「学生王子」から

「Gaudéamus」「Drinking」「Student Life」「Serenade」「Student March Song」

を原語で演奏しました。OB会からは、東京支部13名・仙台支部15名が参加しました。

また、アンコール曲として、「あすという日が」を演奏しました。岡崎さんの指揮で、中学生の演奏とはひと味違う、大人の人生体験を踏まえての演奏をしました。

終了後、会場内の研修室にて、東京・仙台両支部合同総会を開催し、戸田新会長が誕生。さらに、現役支援についても、熱い議論がなされました。

## 二年間のOB会活動記録

### 歴代定演CDを復刻

50周年記念行事として演奏記録のデジタル化を行っていましたが、2010年11月より、CDの頒布が始まりました。その後、引地幹事・嵯峨幹事により、さらなるデータ補充がなされ、第6回から第50回までの定演CDが頒布されています。

演奏データが一部しか残っていない年次もありますが、引き続き音源の補充作業を進めますので、音源をお持ちの方は、両支部の幹事にお知らせ下さい。CDの頒布は、引き続き行いますので、詳細は、OB会HPを御覧下さい。

**2010年12月**  
第58回定演に、東京支部1万円、仙台支部2万円、合計3万円の支援をしました。

**2011年12月**  
第59回定演に、東京支部1万円、仙台支部2万円、合計3万円、また、両支部で400枚のチケットを購入しました。その他、新勸用の看板を、3万5千円で作成し、寄贈しました。

# 各地で活躍する男声OB

## 石田名香雄先生 追悼の会

2010年2月7日

川内萩ホールにて岡崎光治さん指揮でモーツァルト作曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」及びフォーレ作曲「クイエムよりイン・パラディズム」を演奏。

## 支倉常長の聴いた西洋の調べ

2010年4月25日

川内萩ホールにて皆川達夫氏指揮でA、ガブリエリ作曲16声のミサ曲キリエ及びグロリアを演奏。

## 福井文彦 トリビュートコンサート

2011年8月20日

仙台市青年文化センターにて引地信昭さん(40)指揮で「青葉もゆるこのみちのく」、新田昭夫さん(32)指揮で「若さはからだに」、末光眞希さん(50)指揮で「みどりなす平和の学園」を演奏。

## 東北大学原子分子材料科学高等研究機構本館竣工式典

2011年12月7日

片平同機構本館。岡崎光治さん指揮でウエルナー「野ばら」、学生歌「青葉もゆる」、シベリウス「フィンランディア讃歌」、米国学生歌「ピブラ・カンパニー」。

## 男声合唱団 BLESSES

男声OB若手メンバーが中心となり2005年に結成された合唱団で、アンサンブルコンテストや県合唱祭、全日本合唱コンクール東北大会などで活躍しています。

2012年1月14日

仙台・常盤木学園高のシュトラウスホールにて、第3回演奏会を開催し、多田武彦作曲「柳川風俗詩・第二」や信長貴富作曲「初心のうた」等を演奏しました。

## トンペイ メモリアルズ

トンペイ・メモリアルズは、昭和五十年代の卒団生を主体にした団体です。

2010年11月2日

3日に浜離宮朝日ホールで開催された、東京男声合唱フェスティバルでは、加藤旨彦さん(54)の指揮で、外国曲二曲を演奏しました。

2011年11月1日

3日に浜離宮朝日ホールで開催された、東京男声合唱フェスティバルに、36名で出場しました。

佐川元保さん(55)指揮で、フィンランドの作曲家Fougstedtの「中庭のタンゴ」と、多田武彦の「冬の夜の物語」(「東京景物詩」から)の二曲を演奏しました。軽快なタンゴと、北原白秋の世界を叙情的に歌い上げた演奏は好評で、終演後の人気投票では、参加52団体中2位に選ばれました。

## コール青葉

東北大学男声合唱団創立50周年を記念して、2004年2月、東京オペラシティ・タケミツメモリアルにおいて開催された「心に翼を」コンサートに集まった男声OBを母体とする団体です。

混声の大合唱には、男声OBの良きパートナーや仙台・いわき等賛同者による女性陣が加わり「いのちの水」「風を見る」「時を超えて」「北の空から」「こころの旅」「道の辺の花」「一期一夢」と毎年テーマを掲げ、男声・混声の名曲から小原孝さんのピアノと創り上げる企画ステージまで、バラエティーに富んだ曲目に取り組んでいます。今年のオペラシティ演奏会は、奇しくも3月11日、「春を待つ」のテーマでふるさと東北への深い哀悼の祈りと再生・復活への願いを込めて開催されます。



NYカーネギーホールで演奏する合唱団「萩」

## 合唱団「萩」カーネギーで演奏

合唱団「萩」は、岡崎光治さんを指揮者にNYカーネギーホール演奏会を目標に男声OBが中心となつて結成された混声合唱団です。

2011年5月21日、東日本大震災チャリティコンサートに衣替えしてカーネギーのステージに立ちました。

男声は、間宮芳生作曲「合唱のためのコンポジションⅢ」、混声で、広瀬量平作曲「海の詩」他、Our Favorite Song(日米曲オムニバス)の3ステージに現地からの合唱団ステージが加わりました。被災地仙台からの合唱団ということでアマチュア団体の演奏会としては破格のお客様が入り、チャリティ募金も1400万円が集まりました。帰国後宮城県や仙台市等に寄付しました。演奏の様子をNHKはじめ多くのマスコミが取り上げてくれました。

さらに、2011年10月23日、川内萩ホールに満員の聴衆を集めて仙台公演を開催され、「萩」に参加した清貴さんや伊藤ライムさんの求めで、彼らのコンサートに賛助出演しました。

三大学ジョイントコンサート 大成功！

小松正佳(46)

2011年6月18日、品川区民会館「きゅりあん」で開催された、三大学ジョイントコンサートは大成功で終わりましたことをご報告申し上げます。  
単独演奏では、シベリウスという新しい分野の曲を取り上げ、挑戦いたしました。歌詞の理解、発音については、完全とは言えませんでした。ハーモニーは、本番・練習の成果を120%出せたのではないかと思います。中原君の飛躍となるステージを作ることができました。

合同演奏が圧巻でした。当初から、フロント演奏をステージでやっておこうというねらいで、構成を組みましたが、当たりました。「青葉もゆる」で始まり、「斉太郎節」、アンコール「あすという日」が、わが東北をたてていただきました。特に「あすという日」は竜に目が入ったという盛り上がりになりました。

仁科会長に会場においていただき、さらにレセプションでは、乾杯の音頭をとっていただきました。改めて、にじみでる人徳を感じました。東大、九大のみなさんも納得です。

「王道を知る人々」

東大、九大、東北大の組み合わせで、「王道を知る人々」を思いました。奇をてらうことのない常識の積み上げが王道です。企画から、構成協議にわたり、三大学のスクラムを組めましたこと、晴れ晴れとする思いです。

冠に「今こそ歌を」かかげたる  
我らの意気に 拍手は高し

皆様のご協力ありがとうございました。



今こそ歌を！

吉川章(28)

本年6月18日、東日本大震災復興支援三大学ジョイントコンサートが開催された。平成19年に第一回が東大、京大、東北大によって開催されて以来、その名称も「梅雨の晴れ間に」としてこの時期に実施されてきた。

今回もその予定で、昨年東大、九大、東北大の間で準備が進められていたが、3月11日に未曾有の大震災が発生し、被災地の中心である東北大が参加しているの、開催の是非について種々論議があった。結果として、「三大学の男声合唱団OBも何かをもっと貢献しよう。そして我々は歌うことでこれに応えるべきである」という総意が確認された。

当日のコンサートでも、東京大学濱田総長のあいさつの中の「歌は、音楽の中でも最も素朴で根源的な心身の表現形であり、人は苦しいとき、悲しいとき、辛いとき、そして、うれしき、辛いとき、幸せなときに歌を聴き、あるいは口ずさんで、安らぎ、喜び、希望を感じる事ができます。とりわけ、力強い男声合唱は人々に大いなる

勇気と誇りと団結の力を与えてくれます。その意味でも、この時期にこのようなコンサートの開催はまことに意義深いと考えます」との言葉が非常に印象に残っている。

三大学それぞれの演奏のあと、合同演奏の最後に大震災のため仙台の中学校のコンクールが中止となり、その後、歌う予定であった曲が東京で演奏されて有名になった「あすという日」(山本理子作詞・八木澤教司作曲)という曲を演奏した。その中の歌詞に「いま生きていること、いつしうけんめい生きること、なんてすばらしい、あすという日があるかぎり、しあわせを信じて」とあり、これが被災された方々の気持ちであり、これに応えるためにも心をこめて精一杯歌い上げた。

この歌声が被災地のもとに届き、力強い復興への一助となることを期待した次第である。なお、このコンサートの収益金から相当額を被災地の東北三県への復興支援として寄付している。

(学生会会報892号に掲載された原文を、一部をOB会幹事にて修正しています。)

OB会幹事より

年会費納入のお願い  
平成24・25年度のOB会費のご納入(ゆうちょ振替)をお願いいたします。  
各年度千円で、合計二千円となります。

- ◎北海道・東北地区
- 022505
- 70774
- 東北大学男声合唱団
- OB会仙台支部
- ◎その他の地区
- 001909
- 390456
- 東北大学男声合唱団
- OB会

60周年記念誌  
原稿募集

「記念誌」を作成いたします。50周年以降の10年の活動、現在「男声」について思うことなど、12000字位にまとめてご投稿ください。

下記ホームページの管理担当、または仙台支部の清水まで、原稿をメールにて送付下さい。締め切りは、2012年5月末とします。

編集後記

コンパクトな作成を、とさえつつ、盛り沢山な内容になってしまいました。

50周年から、さらに60周年を迎え、合唱に取り組む方が多くなり、OB会を今後とも様々な活動で盛り立ててくださるようお願いできません。

尚、文中氏名の後の( )内は卒団年次で、Hがついているのは平成年次を表します。

編集担当 清水廣行(39)

当OB会では、OB会ホームページを開設運用しております。OB会諸兄および現役団員に関する情報を随時発信しておりますので、閲覧頂けますと幸いです。

<http://tohokudai-danseiob.net/>

また、当OB会から種々のご連絡をする際の、会員各自の最新メールアドレスの確認作業をしています。各自のお名前、卒団年次、卒団時パートを記載の上、下記にご連絡をいただければ、連絡用メールアドレスとして登録いたします。

[danseiob-hp-master@tohokudai-danseiob.net](mailto:danseiob-hp-master@tohokudai-danseiob.net)

HP担当 栗山仁(62)